

からわざわざ上の方まで上ったりなんかしませんでした、見えるので。これは本当にこの土地の面積があるのかどうかもわからないわけでしょう、そうすると。それを九千何百万で買い戻すという。土地開発公社としては処理は終わったかもしれない。しかし、市としては終わらないんだと思います。

合っているんですか、この面積。「59216.84」というの。私はこれ合っていないんだと思うんですね。どうして合っていないというふうに言うかという、この土地登記簿というのは県に売った分を分筆して、帳簿上ですね、分筆しているわけですから、数字的に最終的に合わなければいけないでしょう。ここ合っていないんです。その合計面積が6,324平米になるんです、登記簿謄本の合計面積が1,108平米違うんです。まあ縄が伸びたりなんかするようですからあれなんです。要するに私が言いたいのは、今この提案をしてもらっても私らとしては検討のしようがない。現場もわからない、運動公園なんかできるような格好になっているのかもわからない。もう少しやはりここは検討する必要はあるんでないかというふうに思うんです。

帳簿価格だけで操作したとしても、その数字は合わなければいけないんじゃないですか、財政課長どうでしょうか、そこは。

鈴木良雄議長 松本弘財政課長。

松本 弘財政課長 先ほども申し上げましたけれども、この用地につきまして当初購入した段階では、登記簿の面積で開発公社の方では購入したようでございます。県の方に売却する場合は、議員おっしゃるように実測をして分筆をしていきますから、実測した分筆分をもとの地番の地積から差し引いていくということになるようでございます。その結果、おっしゃるように、登記簿の面積と今私の方で管理しています土地開発公社の資産台帳の合計面積を突合せさせると違ってきているようであります。

ただ、今回我々の方で、以前にもこういったことあったかと思えますけれども、計上してきます金額につきましては、あくまでも開発公社の資産台帳から平成17年度末現在のこの土地の簿価を推計いたしました金額を計上しておりますので、面積は台帳上合わないとかそういったことはございますけれども、金額的な管理の部分からいえば、この金額で取得をせざるを得ないということになるだろうというふうに認識しているところでございます。

鈴木良雄議長 17番、蒲生吉夫議員。

17番 蒲生吉夫議員 それはそのとおりで、財政課長の言うとおりでと思います。面積は違って金額は同じだと、それはそうでしょう、それは。これまでの利子だとか管理費用だとかと積算していけばこの金額になるわけですから。

だからもともとこういう土地というのは、一般的にどうやりますか、じゃあ。買うときには実測もしないで帳簿だけで買うという、こういうふうになるんでしょうかね、どういうものでしょう、それは。

鈴木良雄議長 松本弘財政課長。

松本 弘財政課長 私の認識といたしましては、近年土地を購入する場合、当然のことながら実測が前提になっているというふうに認識いたしております。

ただ、現在でもその実測にかかる経費がむだだというふうに考えられる方もいらっしゃると思いますし、そういう方については当然のことながら登記簿の面積で購入する方もいらっしゃるだろうと思います。

この件については、先ほど言いましたように登記簿の面積で購入をしたというふうに認識しているところでございます。

町田義昭議員の質問

鈴木良雄議長 次に、順位5番、議席番号7番、町田義昭議員。

(7番町田義昭議員登壇)(拍手)

7番 町田義昭議員 本定例会に平成会を代表し通告に従って質問をさせていただきます。

17年度の施政方針演説は、前年までのものとは雰囲気を変えているように思われます。「改革・前進・全員参加」による基本方針での行財政改革の断行が、強いリーダーシップと市民のご理解とご協力により順調に推移し実現されましたことに敬意を表するものであります。特に財政的に大きな山場をクリアされた今年度は総仕上げの1年にしたいとし、ゴールが見える状況になり、少しの安堵の気持ちがかがわれる気がします。また、市制施行50周年の記念事業も思い描いたとおりに実行・実現され、波瀾の50年を一区切りとし、次なる50年のスタートの1年と位置づけられたわけであり、よって、これらの実績を前面に出された自信にあふれた施政方針であると感じます。

これまでの目黒市政は、行財政改革と市町村合併の大きな柱を掲げ、市民の理解と協力を最大の味方とし、これらを目標だけにとどまらず実現するために私がある、という強い意志のもとに行政運営を推進されてきました。特例法に基づく期限内の市町村合併の実現は果たせなかったものの、当市の行動は置賜地区自治体における合併の意義を強くアピールしたものであり、今後に向けて大いに生かされることと信じるものであります。

行財政改革は自治体の永久の課題であり、「言うが易し、行うが難し」の幻的行政課題であります。県内44市町村の首長は全員とっていいほど行革を掲げられますが、終わってみれば極めて低い実現度であり、ばらつきのあることも現実であります。

これらを踏まえて、今までの長井のまちづく

りが決して間違いではなかったと確信するものであります。当局はもちろん、市民のご理解とご協力に対し改めて敬意を表するものであります。

質問の1は、まちづくり施策の推進の中で第4次基本計画に基づく自立に向けての協働のまちづくり推進項目で、市民参画の基本条例の作成や男女共同参画社会に向けた審議会の議論による市民参加をより以上期待するまちづくり施策とありますが、おおむね賛同するわけでありませけれども、「協働のまちづくり」の定義は何ぞや、いま一つわかりにくい点がございませ。

昨年までは「共生のまちづくりの推進」とありました。区別がつかませませ。早速調べてみました。「共生」とは、異種の生物が行動的・生理的に結びつき、一緒に生活している状態とあります。地球の営みそのものであります。余りにも漠然と過ぎる感があります。

さらば「協働」とは何ぞや。造語であると聞いておりますが、広辞苑によりませと「協力して働くこと」と記されております。これなら市民の皆さんに説明しやすいし、どなたにもわかっていただける言葉として心やすく感じたところでありませ。

今、国民一人ひとりが最も望まれることは何でありませしょうか。多種多様と思ひませますが、終局は「安全と安心」ではないだらうか。長井市民もわかりでありませ。安心のまちづくりは、市民一人ひとりがすべてに関心を持ちながら協力し合って初めて達成されるものであり、協働のまちづくりそのものであると考える次第でございませ。周りを見渡せば、災害の拡大化、深まりゆく犯罪、環境悪化による心身の侵食等々、数えれば切りのない状況でありませ。

先ごろ気になる記事がありました。大阪寝屋川事件の影に隠れて目につかないほどでございませましたが、拾ってみました。同じ大阪でありませけれども、小学校の登校中の出来事です。い

つものように「おはようございます」と元気なあいさつをしました。すれ違ったおじさんが「うるさい、やかましい」と言って顔をなぐられたそうであります。この子供は、大人に対し一生心に深い傷を負ったに違いございません。皆さんはどんな感想をお持ちですか、という記事がありました。

学校、家庭、地域が連帯してあいさつ運動を一生懸命になっているにもかかわらず、このような状態でございます。子供に言う前に大人が反省しなければならない出来事であり、常識という言葉が死語になりつつある時代になるのか、極めて残念であり、悲しい限りであります。全国的な災害、犯罪等は、本市にとっても決して他山の石ではないことを市民一人ひとりが認識を深めなければならないと思うのでございます。

後世に禍根を残さない地域づくりは私たちの使命であり、財政はもちろんであります。安全・安心の地域づくりも同時進行しなければならないと考えます。NHK番組の「難問解決近所の底力」は私たちの生活に多くのヒントを与えてくれる一つであります。

そこで、平成14年度に制定された長井市安全推進条例を生かした地域づくりが静かに着々と進行していることに注目しました。さまざまな組織がお互いに関心を持ちながら知恵を出し合い、同じ目標に向かって地域の連帯意識向上に努力されております。これらも長井市全体の共通認識のもとでの協働のまちづくりの一環であると考えるのであります。現在、二つの地域と四つの町内会が組織化されているようです。現在の虫食い状態では効果半減の感がありますので、市全体行動になってこそ意義深いものであると思います。「民間でやれるものは民間でやっていただく」は市長の信条であります。このことは、組織づくりは地域で行うにしても、条例の推進に当たっては行政も一体となって行う責任があるのではないのでしょうか。

協議会設置地区の話によれば、私たちは、一人ひとりがお互いに関心を持ち情報を交換し合うことから始め、焦らずに長続きする運動を展開していきたいとっておられました。同感した次第であります。市長のお考えをお聞きしたいと思っております。

次に質問2であります。施政方針の中で、文章上初めて「ソフト事業」という言葉が消えました。前年までは、教育、福祉、環境、文化等のソフト事業に重点的に取り組み、ハード事業は極力抑えたいとする方針であったわけがあります。17年度のソフト事業に心境の変化が生じたのでしょうか。また、長年休んでいたハード事業に着手することにより、ソフト事業が後退するようであっては困るわけでございます。

方針では、福祉、年金、医療、介護等で弱い立場にある人にも温かい安心が届けられる社会づくりに努力するとありますが、具体的な施策が見えてきません。具体的な考えをあわせて市長の所見をお聞きしたいと思っております。

中でも少子高齢化社会への対応は、昨今の社会情勢から見て最重要課題と認識するわけがあります。ましてや、2005年を境に、少子高齢化はもちろんのこと、日本の社会人口が減っていくという日本がかつて経験したことのない未知の時代に突入するわけがあります。

子育て支援施策である学童保育も、全地区実施から3年を経過し、大変喜ばれております。対象は1年生から3年生まででありますので、ことしから4年生を持つ保護者は新たな対応に追われ、るる相談を受けた次第であります。また、昨年、県において「子育てするなら山形県」の名のもとに子育て支援協議会が設置されたわけがあります。本市もこれにおくれることなく子育て環境の充実に努力をいただき、対象学年の引き上げ等などもご検討いただきたいのであります。市長のご意見をいただきたいと思っております。

また、高齢化施策についても見えにくいものがあります。昨年まで長井の誇るミニデイサービスはどこへ行ったのでしょうか。高齢者の心身の寄りどころであり、地域のコミュニティーの場でもあるミニデイサービスは、高齢者社会施策の一環であり、一年でも一日でも長く自分のことは自分でできる健康増進に役立つものと期待されております。現在33カ所開設されておりますが、市長は50カ所まで推進したいと昨年は答弁されておりましたが、変更はあるのか、この点についても市長の考えをお聞きしたいと思います。

次に、長井の誇れるものの一つに、教育・文化の充実は高いレベルにあります。先人が築かれた土台は、着実な広がりとなり今日に至っております。教育といっても、学校、家庭、地域、生涯等々多岐にわたり、施策も分野ごとに方針が出されるべきであると考えます。

昨年の12月の予算総括質疑の中で、ゆとり教育の長井の現状について質問をさせていただきました。「マスメディアによる全国的な学力低下問題は本市には影響がない」と教育長が答弁をされたわけであり、安堵したところであります。

また、全国的に学校における総合学習の時間のビジョンが見えないところがほとんどであると先ごろの中教審は報告しております。本市の具体的なビジョンはあるのでしょうか、お知らせいただきたいと思っております。

加えて、昨年までの英会話教育はどうなるのでしょうか。地域コミュニティーの公民館活動、スポーツ振興、伝統文化の伝承等についても具体策は見えにくいのであります。

また、教育は「長井の心」をはぐくむことが重要であるとありますが、漠然とわかるような気がしますが、具体的に説明をしろと言われれば何もわからない。ましてや、20行足らずの説明では理解に苦しむのであります。市長の考え

をお聞かせいただきたいと思っております。

次に、質問3の観光行政については、4名の議員の質問があると聞いておりますので、私からは要点のみとさせていただきます。

当市の観光行政は、早い時期から民間の活力を、市民のご理解とご協力を得ての官民一体の行政分野であったと考えております。あやめ、つつじは歴史を感じ、桜回廊、黒獅子は伝統を感じ、水まつりは自然の豊かさを感じさせてくれます。また、最近は五大祭りにとどまらず、新しい発想で随所に観光イベントの火が灯る状況になってきているのも事実であり、うれしい限りであります。

これらを踏まえた施政方針では、長井の観光の柱であった、あやめ、つつじの名前が消えておりますが、気になるところであります。市長の目指す長井の観光とはどのようなものなのか、具体的な所見をお聞きをいたします。

また、長井の観光行政を官民一体となって長きにわたり先導・貢献されたのが観光協会であります。このたびの協会事務所の移転、事務局体制の減員、経理事務の商工会議所への委託などの方針変更に対し、当局と協会に強いあつれきが生じているのも事実であります。雪解けと同時に始まる観光事業に不安があってはならないと思っております。また、長きにわたり活躍されてきた観光協会が最悪のシナリオを迎えるようであっては寂しい限りであります。

市長の信条であるスクラップ・アンド・ビルドがすべてに最良の結果を生むとは限りません。慎重なる対応を望む次第であります。あわせて市長の考えをお聞かせいただきたいと思っております。

なお、3番の観光行政についての答弁は、重複するものと思っておりますのでごく簡単をお願いをいたしたいと思っております。

これで私の代表質問を終わりとします。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

鈴木良雄議長　ここで暫時時休憩をいたします。

再開は3時20分といたします。

午後3時00分 休憩

午後3時20分 再開

鈴木良雄議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 町田議員のご質問にお答えをしながら、私の意見も述べさせていただきたいと思っております。

まず、「協働のまちづくり」に長井市安全推進条例を一層推進せよというお話でございます。ご指摘のとおりだと思います。

「協働のまちづくり」は、縦割りではなくていろいろな立場の人が一緒になってまちづくりに取り組み、一人ひとりが持っている能力を発揮していただく環境づくりでもあるわけですが、町田議員ご指摘のように清水町、中道、四ツ谷、新町、そして平野地区と、長井市地域安全推進条例ができ、つくっていただきました。そして地域安全推進連絡協議会が設立されたわけですが、これらの協議会は公民館や消防団、防犯協会、交通安全協会、子ども会育成会、民生委員の皆さん等、それぞれの立場が参画し連携を図り、地域の安全・安心に取り組もうとしているものでありまして、これもまさに協働のまちづくりの大きな一つだと思っております。市としましてもできるだけお手伝いをしながら、長井市全域に協議会組織が拡大するよう取り組んでまいりたいと思っております。

また、協議会が災害時の自主防災組織として機能するような組織になれば幸せだなというふうに思っておりまして、協議会同士の意見交換をする機会を設けるなど、安全・安心が一層高められるように進めてまいりたいというふうに思っているところであります。

次に、ソフト事業の継続・充実は今年度も変わりはないかというご指摘でございます。

変わりはございません、結論から申しまして。これは、先ほども申し上げましたが、施政方針が少し力が入って長くなり過ぎて、途中で削ろうと、短くしようということになりましていろんな面で不備が出てきたことでありまして、私の気持ちの中は、常に福祉や教育、環境、文化、これは大変大事だと、ソフトを大事にしていこうと。できれば全国のトップクラスを目指したいという考えで変わりはありません。

したがって、具体的に長井市が誇るミニデイサービスですね、これも、平成6年度から始まって今33カ所、約2,000名の方が参加・協力していただきながら事業を運営していただいているところであります。ぜひひとつこの事業運営も円滑に進むように、それからマンネリ化にならないように、健康課等でもいろいろ具体例を挙げながら皆さんとともにやっていきたいと。できれば50カ所と思っておりますが、ことはやはり余り、何ていうんですか、協力委員の方等の配置等も難しい場合等がありまして、少しペースダウンがしているようでありますけれども、必要な地域の皆さんにもぜひご参加いただけるようにこれからも頑張っていきたいというふうに思っているところであります。

学童保育についても、このままこれまでのあれを継続してまいりたいと思っております。4年生以降については、やはり対象者もぐっとふえることになることから、これは少し検討させていただきたいというふうに思っております。しかし、これまでの1年生から3年生については、しっかりとできるようにしていきたいというふうに思っているところであります。

「長井の心」を育む教育という面で、これは私も「長井の心」というのは」と言われると難しいわけですね。長井を愛し、長井を誇りに思う心と、短く言えば。そして、お互いに平和な

安全な社会で共存共栄をする心ではないかというふうに思います。そのために子供たちにもふるさとの持っているすばらしい風俗、習慣、歴史、自然等について学習をしていただいて、生まれ育ったふるさとをよく知り、また、そこで活躍している人々をよく知り、その中から生き方を学び、偉大な人たちの人生にも触れることから、「長井の心」というのが、長井を愛し、長井を誇りに思う心が生まれるのではないかというふうに思っております。

学校では、主に総合的な学習の中で地域のいろんな活躍をしておられる方のお話を聞くとか、歴史を調べるとかボランティア活動をするとか、あるいは節電・節水、ごみの分別等省エネに取り組みながら環境問題を勉強するとか、いろいろやっけていただいていると思っております。

なお、英会話学習についても引き続き私は重視をしてみたいということで、いわゆるALT、助手ですね、これをできますればもう1名ふやして2名にお願いして、今非常に引っ張りだこなことでありまして、子供たちが勉強したいという意欲を持っているところにちゃんと勉強できるようにしていきたいものだというふうに思っているところであります。

観光行政につきましては長く申し上げませんが、まちづくりの大きな目玉でありまして、つつじ、あやめ等も大事だということに思っております。先人がつくり上げたものであります。そして、さらに桜回廊、黒獅子まつり、水まつり等のイベントを組み合わせる、あるいはフットパス事業による散策ルート、いろんなこれからの新しいバージョンアップ等をしながら、地域の皆さんもまず楽しんでいただく、そして住んでよかったと思っております。それから、長井に外から来られた皆さんにもおもてなしができるような観光を目指してまいります。長井の観光について当初からあるいは昨年からは変

わったという点はございません。しかし、さらに力を入れていきたいと、バージョンアップをしていきたいということでありまして、ご理解をいただきたいと思っております。

観光協会は、私はこれまでよく頑張っていたというふうにそれは思っています。しかし、時代に合わせてやはりさらに私が申し上げるような改革についてもご留意をいただいて、さらにバージョンアップしていただくというか、そういうことが必要なのではないかというふうに思っております。私は楽観的でありますので、必ずそうになっていただけるように努力をしていきたいと思っておりますし、そうになっていただけるものだというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

鈴木良雄議長 7番、町田義昭議員。

7番 町田義昭議員 「協働のまちづくり」に対する長井市の安全推進条例の推進ということで、やはり私たちが住みよい社会をつくっていくということについては、物すごく大事であり大切な組織づくりだなということを実感したわけでございます。

先ごろも平野地区の協議会の会合に出席しまして、やはり今まではそれぞれの交通安全協会あるいは防犯協会、あるいは母の会とかPTAとかいろんなものがあるわけで、そういう組織が多くなったからこういう安全な、安心な地域づくりができるかといった場合には、必ずしもイコールにはつながらないというふうな感じを持ったわけで、やはりそうした組織が横のつながりを持つことによってすごく相乗効果が出てくるのかなという認識をしたわけで、このことはぜひこのたびの「協働のまちづくり」に生かしてほしいなというふうに感じたので、話をさせていただいたということでありまして、どうか今後も拡大を図っていただきたいなと、そんなふうに思う次第でございます。

あと、ソフト事業の継続・充実については、

市長は前年とは変わらないよという答弁をいただきましたので、ああそうですかということであります。

やはり施政方針を読ませていただいた中で、非常に市長の実績というんですか、それが前面に出ていたというようなことで、よしあしは別としまして、そういうことで後半の方が影に隠れてしまった、要するにぼやけてしまったというふうなことで、本当にやる気があるのかなと、そんなふうに失礼ながら思ったところでありますけれども、答弁をいただいた中で前年までとは一切後退はないというふうなことでありますし、またミニデイについても、別に50まで早くしろとかそういうことは私は全然言うつもりはないわけで、着実に開設したいなというところについては聞く耳を持ってほしいなということでございます。

あと学童保育については、やはり市長は4年生以上についてはいろいろあるものですからというものは何がいろいろあるのかわかりませんが、大体わかりますけれども、私はこの部分はしっかりと対応していくべきなのではないかなとは思っております。

ということは、新しい家族が入学させた、学童保育に入れた、1年生と3年生が入ったと。そのつもりで若いお母さん、お父さんは生活設計を立てているわけだね。そうしたときに、次の年から4年生はおうちに帰らなければならないと。いわゆる昔でいうかぎっ子ですね。かぎっ子対策のために中央児童センターが出たわけですね。元齋藤市政のときだったと思います。そういうことを振り返ってみななければならないのではないかなと私は思うので、そういうところにお金を惜しんでしまうと、いわゆる少子化対策とか住みよさとか、そういうのは維持できない、失われてしまうと。市長が言っておりましたね、弱い立場の人に温かい心を向けると。そういうものはきちっと実践してほしいし、今

よりもワンステージアップしてほしいと、私はそんなふうに思います。

昨年度も申し上げたような気もしますけれども、高齢化という部分の、健康で十分に自分のことは自分でやっていただけるお年寄りに対して、私はどんどん手だてを加えていくという政策は余り好まない。それよりも、そうでない、これからの時代を担う子供たちにはきちっとしてほしいなと、そんなふうに思うわけで、この点についていま一度答弁をいただきたいと。4年以上についてはなということでありましてけれども、これを一步やはり踏み込むような施策がないと前の年と全然変わらないよということになってしまうわけでございますので、もう数字が出てくるわけですね、学童保育は来年は4年生何人とか。だからもう計算もできるし、もう見通しも完全にできるということでありまして、その点について答弁いま一度お願いいたします。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 町田議員のご質問の本旨、思いはよく私もわかっているつもりです。

問題は、そういうふうに入りますとどこでやるかということが必ずなってくるわけでありまして、できますれば、なかなか、私はやはり学校でということも前にも申し上げたことがありますが、そういったところで空き教室等があればそちらでやっていただけるようにするのが一番いいのかなというふうに私は思っているんです。

ただ、この1年から3年でおやつなんかを上げるときに、学童クラブに入っている方はおやつを上げるけれども、そうでない方はおやつを上げない、それから出入りも自由だということになってしまうと、そこもやはり難しい問題も出てくるんですが、しかし、私はやはり学校にもう少し協力してもらえないかなというふうに思っております。そうすれば、財政的な負担等

はそれはそんなではありませんから、私はできるのではないかと。ただ、学校から離れて少し遠くのところでということになると、そこへ行ってまたこう帰ってこなければならぬみたいなどころがあって、そういった意味で、教育委員会でも本格的にひとつぜひ学校等でやっていただくことをお願いしたいなというふうに思っております。お願いもしておりますが、そういった問題を踏まえながら私はやはり町田議員のご趣旨を生かせるようにしていきたいと思っております。

鈴木良雄議長 7番、町田義昭議員。

7番 町田義昭議員 よろしくお願いを申し上げます。

あと、長井の教育についてでありますけれども、やはり「長井の心」というもの、市長がわからないんだから当然私わからなくて当たり前だと今ほっとしているんですけれども。

きょうの新聞にゆとり教育に対するアンケートの結果なんていうのが出ていたようですね。75%の方々が改善をした方がいいと、不安を持っているというふうな結果が出ているわけで、このことはどういう形で長井の教育に影響を与えてくるのかということについてはまだまだ先の話でありますけれども、先ほども申し上げましたとおり、学力の低下はないと教育長は答弁されているわけで、今後の様子を見なければならぬのかなと、そんなふうに感じております。

ただ、総合学習の時間というものの利用の仕方というものについて、私も2002年でしたか、予算総括だか一般質問だか忘れましてけれども、その持ち方によって、それぞれ学力だけでなく人間形成の上で大きく差が出てくる事項でないかなという質問をしたような記憶がございます。やはりそれぞれの学校あるいはそれぞれの地域に任せられておりますので、すべて特徴が出てくるわけで、その点について、今回も中教審ではビジョンを持てるような自治体はもうほとん

どないというふうなことで、この点について長井は何とかビジョンが持てるような総合学習の時間の利用の仕方というものに対して真剣に取り組んで、今までも真剣には取り組んでいただいたと思いますけれども、この時間をただビデオを回すとかそうした時間でない、実り多いものにしていただければ幸いだなと思っておりますので、この点についても、英会話教育などもこれを利用されているということ、市長に伺ったわけでありましたので、何かいま一步踏み込んだ、前進した考え方があるとするならばお願いしたいと思います。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 私は、ゆとり教育が悪いとは思いません、私個人的に言えば。やはり教育というのは、どうもすべての点で平均点を上げることが教育だというふうにするとしたら、私は違うのではないかと。その子の持つ個性をやはり引き出して行って、いいところを褒めて伸ばしていくということも十分にやはり小学校の高学年あたりからは必要でありますし、そういった視点で考えるならば、一律に学力テストでどうだとかということでは私はまたないような気がいたします。

ただ、読解力とかそういうものについていえば、漫画ばかり見ているとなかなかつかないとかいうようなことについては私は当たると思いますが、やはりゆとり教育というのをしっかりと本旨を実践していくということが、人間をさらに個性的な豊かなそれぞれのよさを持った子供たちをつくっていくことなのではないかという意味で、やはり総合学習なんかも有効に活用しながらゆとり教育を実践していくと。まだ国の方針もふらふらしているようでありますけれども、私はやはりこれは実践していくと、さらに充実していくというような方向でやっていただきたいものだというふうに思っております。

具体的には教育長等がよく考えてやっておられると思いますし、教育委員会が頑張っておられると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

鈴木良雄議長 7番、町田義昭議員。

7番 町田義昭議員 よろしくお願ひしたいと思ひます。

観光行政に対してですけれども、質問された方に対して十分なる答弁をいただいておりますので私からは特別なことはないんでありますけれども、ただ一つ市長にお聞きしたいなと思ひるのは、先ほども答弁なされていたんですけども、「観光協会がこれからも存続をしていただければよろしいのではないかと」という発言をなさっていたので、それには変わりございませんか。

鈴木良雄議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 観光協会の私も定款等も見せていただきました。そして、今までのやっている活動についても、私は正しく評価をさせていただきたいと思ひます。そして、今後も観光協会が必要だというふうに思っております。

ただ、私申し上げますように、バージョンアップをして、民間総結集して、若い人や女性も入れて、そういった体制づくりであるとか、やはり経理の透明性であるとか事務局をスリムにするとか、それも民間の事務局は全部連携がつくようにするとか、そういった方向性はぜひお願ひしたいなと思っておりますが、観光協会はぜひ続けていただく、あるいは続けていただけるものだというふうに思っております。

鈴木良雄議長 7番、町田義昭議員。

7番 町田義昭議員 市長のそここのところの考えをきちっと聞いておきたいなと思ったわけでございます。3月14日に観光協会の理事会があるわけで、そのときにどういう判断を下されるのかわかりませんが、やはり観光協会側としてみれば、市長の対応の不備というかな、

そういうものについても大分お怒りになっている点もありますので、いわゆる伝わらない部分ですか、「観光協会は今後もよろしくお願ひします」という言葉など一つもないなんていう話もありますので、今その確認をさせていただいたところでもありますので、よろしいのではないかなと、そんなふうに思ひます。

ちょっと時間が大幅に余っておりますので、観光には直接関係ないわけでありまして、私は最近感動したことがありまして、いわゆる市長の言う観光ですね。今までの観光と違ったこれからの観光で、長井商工会議所青年部が鍋合戦で2連覇を達成したというふうなお話をお聞きしたわけで、どんなにおいしい鍋なのかなというふうに思ひ、まだ食べたことがございませんでした。それが先般、商工会議所の新年会の中で食べさせていただきました。本当においかったです。

こんなにおいしいのかなと。自分ではもっと……、そこまで思っておりますけれども、何ていうんですか、あのデミグラスソースの味というのは今までの鍋という感覚からいって別世界のものだなと、そんなふうに思った次第で、ぜひ長井のそれこそ目玉商品になればなと思っておりますので、市長も一目置いていただきたいなと、そんなふうに思ったところです。

ただ残念だったのは、七、八人で屋台をつくって料理していたところに、私は「青年部の皆さん、本当においしいものをつくっていただいて食べさせてもらってありがとう」という言葉をかけに行っただけですけども、その返りの言葉が、「今まで皆さんに提供してきましたけれども、「うまいがったなあ」と言われたのが町田さんが初めてですよ」ということでした。非常に残念に思ひました。やはりこの点が長井の観光の積極性に欠けるところでないかなと。それこそもてなしの心、思いやりの心か、こういうものというのはやはり何かまいち……、前に

進んでいかないと市長の言う観光行政には近づけないのかなと思っておりますので、余計なことでありましたけれども、積極的に推進していただければ幸いだなと思います。これで終わります。

散 会

鈴木良雄議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開はあす10時といたします。

ご苦労さまでございました。

午後 3時46分 散会